



総思創愛

大急ぎで学校に戻りました。10月1日(金)、この日は大切な東輝祭2日目、文化部門の日でした。入り口では新しい大きなアーチが生徒たちを迎え、教室や廊下には、分割して作成した学級旗をはじめ、懸命に取り組んだ美術部の作品、工夫されたきれいな展示物が飾られていました。例年と違い、2日間連続で行わなかった今年度の東輝祭、実施日を考えるのも一苦勞で、私自身どうしても抜けることのできない出張がぶつかってしまいました。3公演した最終の演劇部や吹奏楽部の発表を観たかったのですが、間に合わなかったものの、そんなことより廊下ですれ違う生徒の表情を見ていると、本当に実施できてよかったと思いました。

学校に戻ってから、ソーラン節や各学年発表の映像を観て、閉祭式に臨みました。分散登校時には各家庭で、取組期間に入っても少人数のグループごとに練習していたソーラン節がひとつの集団となって踊る姿は圧巻で、想いを重ねて練習してきたことがわかりました。各学年の発表は、学年の今の想い、目指す姿をメッセージとして伝えてくれました。発表を観ていると、全員が何かの役割を担うという取組方法は継承されていて、それぞれがそれぞれの立場で頑張っていることを認め合う本校のよき伝統が続いていることがわかりました。閉祭式での声を出さずに全員で拍手をそろえる応援は、想いがひとつになったことをかたちとして表現する、新しい伝統をつくったように感じました。

実際に行事を行うと色々なことが見えてきます。3年生の学年発表で生徒が持っていた3年間の1番の思い出が書かれていた紙に、1年生の頃の『ムカデ競走』や林間学校での『カレーライス』、もっとやりたかった『部活動』の文字があったのは、それぞれの生徒の想いを伝えてくれました。閉祭式での大きな声ではない全校合唱『ケサラ』は、マスク越しに、本校生徒のみんなでひとつになりたい願い、強いエネルギーを伝えてくれました。

東輝祭をやり抜いた本校生徒は、取組期間、そしてこの2日間を通して大きく成長したように思います。あきらめないこと、時間を大切にすること、工夫すること、創造すること、想いを重ねること、またその方法には様々なかたちがあること、、、そういったことを学んだような気がします。東輝祭初日、一人ひとりのプログラムにそれぞれの生徒の名前を入れて

配布した生徒会主任の神尾先生が、閉祭式直前、「最後はあの子たちに任せます。」と言って校庭に出て行ったことが印象的でした。

本校は『東中愛』あふれる学校です。それは保護者の皆さんも含めてです。生徒たちが今回のような活動をする事ができたのも、保護者の皆さんのご理解があればこそです。今後も本校は、生徒の成長を願い、様々な教育活動に取り組んでいきます。よろしくお願いします。



みんなの新人戦

10月8日(金)、9日(土)、甲府市新人体育大会が行われました。感染症対応をして、保護者の皆さんや管理職以外の先生方の観戦ができない中での実施でしたが、各会場で本校の生徒が躍動する姿を見ることができました。大会に参加し貴重な経験する生徒たちの姿を見ていて、本当に実施できてよかったと想いました。

10月6日(水)には、壮行会を行いました。この壮行会が、避難訓練等を除くと全校で集まる3回目の機会でした。東輝祭の閉祭式からあまり時間は過ぎていないのですが、全校で集まる様子は大きく変わっていました。それはこの瞬間が、3年生から1,2年生に、東中の代表が移行するのを確認する機会だからです。入場曲を奏でる吹奏楽部員も1,2年生、3年生にとってはちょっとだけさみしさを感じる機会かもしれませんが、東輝祭の後ということもあり、学校全体につくられた絆を感じ、大人になった3年生が1,2年生を包み込んでいるようにも見えました。壮行会は「想い」があふれる行事ですが、さらにそのあたたかさが増していたように感じました。



大会当日は、各会場に駆けつける東中名物の先生方の応援ができない状況でしたので、できるだけ多くの会場に行きましたが、どこの会場に行っても、例年にも増して、生徒たちが他の部の様子を気にして、よい結果を聞くと喜び、励みにしていました。

新人戦の大切なねらいは、結果ももちろんですが、今後の課題を見つけることです。「部活動の東中」の伝統は、これからも続きます。

GIGA スクール

未来を生きる子供たちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。本校でも、1人1台のタブレットを授業や話し合い活動で有効に活用し、実践を進めています。授業の様子を見てみるとあたり前のように机の上にタブレットがあって、思う以上に子供たちにとって身近な存在であることがわかります。

10月28日(木)より10月31日(日)まで、タブレットの家庭への持ち帰りを実施します。(11月1日(月)返却)将来的には家庭学習でも活用できるようにするための初めての試みです。情報活用能力を育成し、情報モラルをしっかりと守ると、感染症が心配な状況でも教育の可能性は大きく広がるとともに、家庭と学校をつなぐ大切なアイテムとなります。この試みには、ご家庭のご理解とご協力が不可欠です。子供たちのため、よろしくお願いいたします。

